

好きな先生
のために
女になった日





「おれくん♡」
「え!? 先生!?!」
「なんで裸。。。に。。。?」
「見たかったんでしょ?♡」



「先生の裸♡」

「それは…。」

「でも、なんで先生が俺の部屋に…。」

「ふふ♡なんてだろうね♡」



「そんな事より…」

「もっと見てもらいよ♡」

「…んごか…♡」

「せ、先生の…」

ま●い…

「すん…」

んばあ…♡

「おれくんに見られると…」
「興奮しちゃうな…♡」
「ほら…♡」
「どんどん濡れてきた…♡」

「あはは」

「あはは」

「あはは」

「あはは」

「あはは」





「ここに、おれくんの」

「おち●ぼ…」

「入れて欲しいな♥」

「いいんですか…?」

「うん♥入れて♥」

ドキ

くちゅ

ハズレ

くちゅ

ドキ

ドキ

「そのギンギンにはなった」
「おち●ぼ……♡」
「先生のおま●こに……♡」
「ちようだい♡」

「おち●ぼ」
♡♡

「おち●ぼ」
♡

「おち●ぼ」

「おち●ぼ」

「おち●ぼ」
♡♡

「おち●ぼ」
♡♡





おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

「あぁ♡」
「おれくんのおち●ぽ♡」
「大きくて気持ちいい♡」
「先生...先生...」



「おれくん♥」
「先生のま●●ぶん?♥」
「き、気持ちいいです...」
「すごく...気持ちいいっ」

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ



「ま●こ...おれくんの形に」
「されちゃう♥」
「先生っ!」
「俺...もう...」

「おれくんの」

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぽんぽん

ぽんぽん

ぐちゃっ

ぽんぽん

ぐちゃっ



「ぐちゃぐちゃ」
「びしょ」
「もうっ?」
「それじゃあ...先生の中に」
「出しちゃってらいだよ」
「先生に中出しして」

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ



「あああぁっー!」
「で、出るっー!」
「来てっ♥」
「おれくんの精子…♥」
「たくさん出してえ♥」

ぐちゃっ

びしょ
ぐちゃっ

びしょ

びしょ

ぐちゃっ

びしょ

「ああ……」

夢……か……

また、こんな夢を……



「ああ……先生とやりてえ……」





「あら？おれくん」
「どうかした？」
「ああ、先生…好きだな…」
「あの…その…」
「ん？」



「先生……」

「俺……先生のことが……」

「好きです……!」

「え!」

「かバチ……」

「どうせもう卒業だし最後に……」



「ごめんね……」

ああ……やっぱりダメか……

「私……女の子じゃないとダメなの……」

そっか……女の子じゃないと……

ん？

「え？」



「おれくんが女の子なら・・・」

「その気持ちに応えれたんだけど・・・」

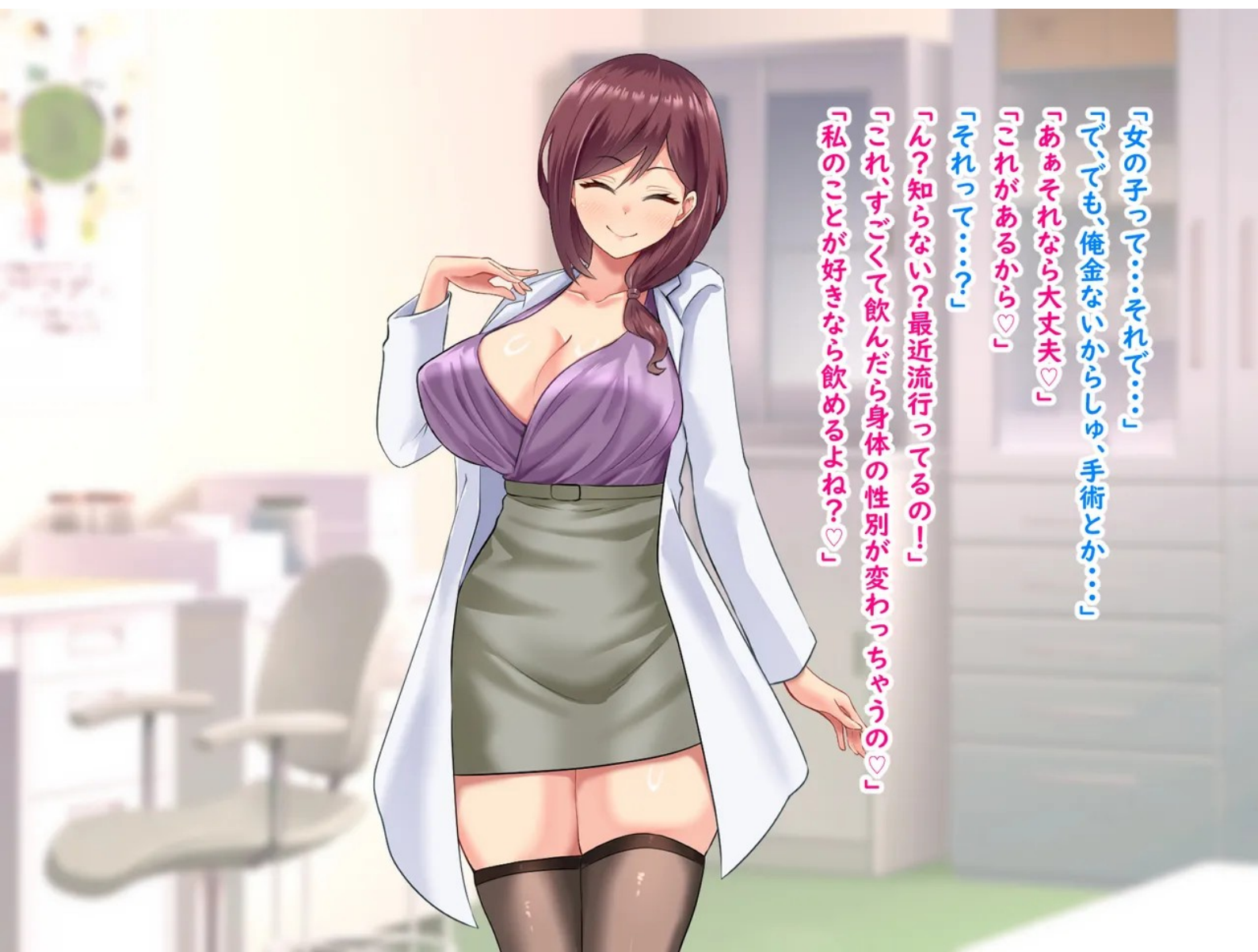
「あっ！でも、もしおれくんが女の子になるなら・・・」

「いいよ♡」

「え・・・」

「んん？理解が追いつかない・・・」

「俺が女に？そうすれば・・・OKってこと？」



「女の子って…それで…」

「でも、俺金ないからしゅ、手術とか…」

「ああそれなら大丈夫♡」

「これがあるから♡」

「それって…?」

「ん?知らない?最近流行ってるの!」

「これ、すごく飲んで飲んだら身体の性別が変わっちゃうの♡」

「私のことが好きなら飲めるよね?♡」



まじか…
でも、これを飲めば…先生と…
「でも、無理はしないでいいよ?」
「いきなり飲めって言われても怖いよね?」
「いや!飲みます!先生のためなら!」
「俺、これ飲んで…女の子になります!」
「いただきます!」

バクリ

ゴブリ



味は…ない…？

これで本当に…？

「あら〜♡いいね♡」

ん？これ…変わったのかな？

「おれくんがそんなに私のこと思ってくれて嬉しい♡」

「約束通り…応えないとね♡」

「そ、それじゃ…」

先生と…付き合える！？



「そのベッドに裸で座って♡」
「え?」
「ほら♡早く…制服…脱いで♡」
「んんん?…?…?」



「あの…先生…?」

「はぁ♡いいね♡♡」

「ゾクゾクしてきた♡」

「先生にそう言われて嬉しい気持ちもあるんですけど…」

「これは…その…」



「おれくん?♡」

「大丈夫♡」

「これから気持ちいことするだけだから♡」

「鍵も閉めたし...」

「これで2人つきり♡」

「たくさん楽しみましょう?♡」

先生って...結構やばい...?」



「思ってたより可愛いな♡」

「ちゃんと飲んでくれたご褒美もあげないと♡」

「なにか…してほしいことある?♡」

「え…えつと…」

「それじゃ…」



「先生の…」

「お、おっぱいが…」

「触りたい…っ！」

「ふふ♡いいよ♡」

「触らせてあげる♡」

「こっちおいで♡」



「好きだけ触っていいよ♡」
「えっ…本当に…?」
「うん♡嘘ついてどうするの?♡」
「約束は守るものでしょ♡」
「ほら、遠慮しなくていいよ♡」

ト



「そ、それじゃ...」

「失礼し...します...」

「ん♡」

「はあ...すげえ...」

「柔らかい...先生のおっぱい...」



「すごいエッチな触り方♡」

「おっぱい好きなの?♡」

「…は、は…」

「もしかして…触るの初めて?♡」

「!?!」



「ふふ♡図星だったかな♡」
「それじゃあ、今日は特別にたくさん楽しませてあげる♡」
「忘れられない日にしようね♡おれちゃん♡」
「また、そこに座って♡」



「もう♡ちゃんところこ手入れしないとだよ♡」
「こんなに生やしちゃって♡」
「先生が…切れに剃ってあげるね♡」
「えっ…先生って…」

ハハ

レ



「ん？無いよ♡」
「パイパンってやつ♡知ってる？♡」
先生…生えてないんだ…
「すごく敏感になって…エッチの時…」
「気持ちいいんだよ♡」

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



「あつ……」

「ちゃんとクリームで毛を柔らかくして……」

「先体の時となんか違う……」

「女の身体になってるから？」

「馴染んできたなら……判るよ♡」

びくっ



「んっ……」

「優しくやるけど、痛かったらすぐに言っ
てね？」

「は、はい……」

ああ……剃られて……く……



「ほら……♡」

「綺麗になってきた♡」

「剃ったことなかった?♡」

「はい……」

「なら、今日だけ初体験たくさんだね♡」

シャリ♡

シャリ



「可愛い割れ目も見えてきたよ♡」
「このあとたくさんここ触って気持ちよくしてあげる♡」



「綺麗なおま●こ♡♡」

「全部無くなっちゃったよ♡♡」

「すごい...」

ツルツルだ...

ツルツル

ツルツル

ゴッ



「本当に可愛いおま♡♡♡」

「はぁ♡はぁ……♡♡」

「ちよっ……先生……」

「近い……です……」

はぁ♡♡

はぁ♡♡

はぁ♡♡



「あっ!はあっ!」

「可愛い♡」

「こんなおま●こ見せられたら我慢できない♡」

「ま、待って…:くさいっ!」

「なんだこれ…:頭のとっぺんまで…」

「電気が走ってるみたいに…」

びくッ

びく♡

びく8

びく



「剃りたてだから刺激強いかもね♡」
「おま●こ、舐めれるの気持ちいでしょう?♡」
「キ●コ●」
先生のが…ぬるぬるして…
変な感じ…頭が変になりそう…

びく

びく

くちゅ

びく

くちゅ



「だんだんエッチなお汁出てきたよ♡」
「ちゃんと女の子の身体になってるね♡」
「これが…女の感覚…?」
「やばい…ふわふわする…」

ドキ

どくっ

どく…

どくっ

どく…

どく…

ドキ

はあ♡

はあ♡

ドキ

ドキ



身体に力入らない…
でも、すごく気持ちい…
「おま●ことおっぱい…♡」
「一緒に触ってあげる♡」
「おっぱいの感覚もじっくり味わってね♡」

んー

もみ

んー



触られてる…
先生に俺の身体…
こんなに気持ちいいことだったんだ…
女の身体…めっちゃ気持ちいいじゃん…
あっ先生のお尻…
こんな近くに…

くちゅ

くちゅ

くちゅ



たわ
たわ

たわ
たわ

「んっ!♡」

「あら…♡先生にいたずら?♡」

「イケない子ね…♡」

「ああ…先生のお尻…」

「触り心地…最高…」



もみ

さわ

びくびく...

「そんなに先生のお尻好き?♡」

「さわさわ触って...♡」

手が勝手に動く...

理性がコントロールできない...

「ふふ♡そんなイタズラっ子にはお仕置きだね...♡」

さわ

もみ

びくびく

びくびく



ノー～

「これで・・・お仕置き♡」
「でも、お尻触られてちよっと気持ちよかったから」
「ご褒美も合わせて♡」
「先生も裸になってあげる♡」
先生の・・・おっぱい・・・!



「ちゃんと声出さないように頑張ってるね♡」
「鍵は閉めてるけど・・・」
「大声出しちゃったら誰かにバレちゃうから♡」
「なんかすごい動いてる・・・」



「これ…すごいんだよね♡」
「先生は好きだけど…」
「おれちゃんも気に入ってくれるといいな…♡」
「まさか、それを…中に…?」
「はい♡お尻出して?♡」



「スイッチ入れたら…もっとすごいよ♡」

「せ、先生…ちよつ…」

「我慢して、声出さないようにね♡」

「えっ!」

わんわん



うっぐっ!?!うっぐっ!?!
ほら...声♡
「漏れちゃうと誰かくるよ♡」

バババ

ぐわぐわ

ふんふん♡

ふんふん♡

ふんふん♡

バババ

ふんふん♡

ぐわぐわ

バババ

ぐわぐわ



ぐちゃやびくん

「んんっ!」

「ふふ♡頑張ってる♡頑張ってる♡」

「あ♡可愛い♡」

お腹の中が...

かき混ぜられてるみたい...

苦しいのに...なんでこんなのが...

気持ちいって感じるの...?

女って変だよ...っ!

ぐちゃっ

びくん

びく...

ぐちゃっ

ぐちゃっ

びくん

びく♡

びくん



びんぽん

ぢゅぽ

ぢゅぽ

びんぽん

ぐざ

ぐざ

びんぽん

ぐざ

ぢゅぽ

「やばい…なんか上がってきた!？」
「苦しそう♡」
「そろそろイキたくなってきた?♡」
「これが…女の…っ!」
「やばいっ!」



「んんっ……!」
「ふふ♡女の子になってからの……」
「初イキだね♡」

カッパッ

カッ

カッパッ



はあ♡♡

ぐず♡♡

ぐず♡♡

はあ♡♡

ぐず♡♡

「あっ!ちよっ…」

「先生もイキたくなっちゃった♡」

「女の子の身体同士で繋がりながら…♡」

「一緒に気持ちよくなろう♡」

「ま、まだイったばかりで…感覚がっ…」

はあ♡♡



「そんなの関係ない♡」
「気持ちいのに休むなんて勿体無いでしょ♡」
「おかしくなるまでやらないと♡」

先生…先生…
こんな人だったんだ…先生…



「はあああああ！」

「だ、だめっ！」

「声♡すごいよ♡」

無理…無理…我慢できない…っ！

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ♡

ぐちゃっ♡

びん

びん

びん



「あはは♡」
「すごいお汁溢れてる♡」
「止まらない…っ！」
「お、おかしくなるうう！」



「ほら♡もっ♡と♡」

「もっ♡とおかしくなっ♡ちやえ♡」

「もう…♡意味がわからな♡い…♡っ!」

「自分の身体じゃな♡いみた♡いに…」

「も、もう…♡やめっ♡…♡っ!」

はあ♡♡

ぐちゅ

んんん

ぐちゅ

はあ♡♡

んんん



「ふふ♡そう言うわりに腰はすごい気持ちよさそうに」
「動かして♡」
「本当はもっと欲しいんだよね?♡」
「先生はわかってるよ♡」
「だから…もっとしてあげる♡」
「先生ももっと気持ちよくなりたいし♡」



「おれちゃんももっと気持ちよくなりたいでしょ?♡」
もう…頭が真っ白で…
先生が何か…言ってる…みただけで…
わかんない…



「何も言わないってことは同意ってことだよね♡」
「それじゃあ、最後までしちやおうね♡」
「ああ……まただ……また……」
「あれが……くる……」



「んんっ！おっ！？」
「あはは♡またイってる♡」
「女の子の身体堪能してるね♡」
「もっとイって♡」



「ああ……っ！」

「ふふ♡」

「おかしくなったちゃえ♡」

「それで先生ともっと♡」

「もっとしようね♡」

「はあ♡」

「はあ♡♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」





「はあ……はあ……」

あれ……？

どうなった……？

おれ……どうなった……？

なのも覚えてない……

はあ

ドクン

クン

クン

はあ

ドクン



「ちょっといきなりやりすぎたかな?♡」
「まあ、ここ保健室だし...」
「ゆっくりしていいよ♡」



「元気になったらまた……」

「先生とやろうね?♡」

「ああ……はあ……」

「どうなった……?」

「おれ……先生と……したんだよね……?」



また…するの…？
先生と…エッチ…できるの…？



読んではななびあつかなんかあまー。

次のーあからあまあまーあまあまー。

あまーあま















































